



な理解を得るとともに連谷には歴史的(風土記)な纏めたもの

閉校記念誌編纂への思い

あと、一年余りで閉校になる我が母校、連谷小学校の記念誌部会の部長を仰せつかった。千枚田、三遠南信地域活性化活動、博物館等々、山盛りのボランティア活動の中、再三お断りしたが。「あいつは、忙しいほどいい仕事をせるから・・・」と簡単に無理強いされてしまった。

受けるからには校区民の学校への熱い思いと連谷魂を何とか纏めてみたいと、また、嫌な虫が勝手に動き出し、軽い脳みそを揺すぶる羽目になってしまった。記念誌は地区の総意で作成、発行するものだから学校の沿革だけに拘らず、地域の出来事、歴史などを極力盛り込み「学校と共に歩んだ連谷校区と身近な出来事・社会の出来事」を視野に編纂作業を進めることとした。

第一回閉校委員会全体会議にあらかじめ纏めた素案(年表)を資料として提案した結果、委員全体の大き

のがない。折角だから学校の沿革だけでなく、地域・社会の出来事を盛り込んだほうが、馴染み深く、何かにつけ活用できるから地域密着型の記念誌にせらまいかん。と相成った。さて、それからが大変、うず虫の騒ぐなか、図書館へ行ったり、人をつかまえ「馬車はいつ頃まで曳いておったづらか」とか「二宮金次郎(像)は兵隊さんに行っちゃったって、本当づらかのん、知つとるかん」、 「学校へ焼夷弾が落ちて、大きな音がしたのん」等々、暇をみて調べまくった。また、閲覧板などで古い資料の協力、情報提供を呼びかけたがほとんど集まることもなく、兎にも角にも聞き取り、資料収集にあたった。収集した資料をパソコンの前であの時代にはあんなことがあった、こんなことがあったと感慨にふけり、熱が入るといついつい朝方近くになっちゃうこともしばしばである。でも、大変ながら結構楽しい。

年表より抜粋

年号	西暦	学校の出来事	身近な出来事	社会一般の出来事
明治5年	1872	学制頒布[8. 3] 身平橋村白山神社に第28番小学身平橋学校が開校した。	名古屋県を愛知県と改称 養蚕始まる	新橋・横浜間鉄道開通(鉄道の日)[9. 12] 太陽暦採用[12. 3] 文明開化(欧米文化の盛んな取り入れ)
昭和14年	1939	小学6年、高等科2年とする 戦争色が濃くなり男子は木刀、女子はなぎなたが準生課となる	男子高等科2年まで就学義務制(青年学校義務制) 防空監視砲平間山山頂に設置 豊川海軍工廠設立[12. 25] 新城裁判所海老出張所開庁 満蒙開拓義勇軍(開拓団員として大陸へ渡る) 四谷「祇園田楽」は戦争により後継者不足で中断(来宝寺) 田口駅より段戸本谷まで森林鉄道開通 電気 メートル制	国民徴用令公布 ノモンハン事件発生 第二次世界大戦勃発[12. 8] パーマネント禁止
昭和53年	1978	ソニー教育振興賞より児童受賞記念文鎮[2. 20] 三校(連谷・黄柳野・七郷一色)3校集合学習始まる [6. 28]	稲目トンネル開通 [3. 23](一般車両通行可能となる) 北部簡易水道開通 [3. 23] 身平橋農道[3. 30]・大代農道竣工[12. 26]	成田空港開港[5. 20] 平均寿命世界第1位 ファミリーレストラン盛況



正月の雪景色

農地環境保全事業

本市の貴重な地域資源である「四谷の千枚田」の保全、継承のため年間十二万円と、多大なる助成を受けている。各種事業では千枚田周辺やふれあい広場の景観保全整備活動として年二回の草刈り作業や仮設トイレ管理等経費。地元優良企業の新人・幹部研修、専門学校の研修カリキュラム、都市住民交流「棚田の楽耕」等々、継続的な展開が図られている。また、全国棚田サミットへの参加から問題点、解決策など保存活動の一助を得ることができた。このような取り組みは市からの継続的助成があつてこそであり、今後においても財源的助成を、切にお願いいたします。

ヤマアカガエルの産卵

本種は二月の初めの雨の日に産卵するものされているが、昨年は一月三十日、一昨年は一月二十六日が初回の産卵であったが今年例年になく早く一月十五日の雨の日により一回目の産卵があり、二十八日の雨の日にも産卵した。予報では寒い冬と発表され、実際にも零下3℃〜4℃の日があり、寒い日は続いたが産卵前後は比較的暖かった。過去にも暖冬の年はあったが、一月中旬は初めての確認である。また、例年の一月下旬から二月下旬近くまで雨はあまり降らなかったものだが、世の中があまり荒んでいっているのにお天道様が嘆いているかも・・・。



ニホンカモシカ

昨年、秋ごろから愛宕様、中道付近に居ついたイワシカで、結構人なれしている。二月に入り、見ない日はなく、カメラを持って七〜八日近

づいても逃げない。逃げないのは嬉しいが、何とか、違う姿も写したいと、ほぼ毎日撮らせていただいているがカメラ目線で、すべて同じポーズである。



直ぐ付近で「あいち森と緑づくり森林整備事業」の一環としてチェンソーがバリバリ騒々しい音をたてて間伐をしているが、我れ関せずである。

映画「あん」について

インターネット情報サイトを覗いていたら名優 樹木希林主演による「あん」が六月に封切りされる予告編がみられた。この、映画作成について、希林さんは全身ガンで最後の映画になるかもしれないからと「河瀬組」から「あん」の企画書を渡され、協力を依頼された。内容をみるとハンセン病で冷遇された一生の物語であり、協力することを約

束した。

撮影当日、希林さんは撮影の出番はないものの、役作りに孫の沙羅ちゃんを訪れた。その日は地区のお花見会であったため、大女優の樹木希林さんを住民にひと目合わせたいと河瀬監督に打診したところ「希林さんは疲れているから無理でしょう」と言われたが希林さんは車の中で毛布を被り寝ていたが「小山さんの言う事は聞く」と、快く地区の皆さんに会って頂いた。(既報)



ほぼ一日、二人でいろいろな話をする機会ができた。その一つに(舜)も中学二年に父親を「結核」で亡く

し、当時は「肺病はうつる(感染)」と忌み嫌われ、学校では机を離されたり、亡くなった父親を墓地へ埋けない、埋ける(土葬)など、幼い耳に聞こえ、悲しく辛い思いをしたなどの話に希林さんは「あの当時はそうだった」と涙ぐんで聞き入っていた。また、桜の花の散るシーンの桜の木は昭和三十九年に(舜)が植えた桜であることを話したら、これも何かの縁であると嬉しい言葉を頂いた。今、希林さんは元気のようである。これも、きつと四谷の千枚田が希林さんに心地良い癒しと活を与えてくれたものと、田んぼの畦から喜んでいる。

忙中閑あり

- 四谷の千枚田パンフレット作成
- 奥三河地域雇用創造協議会事業 推進・実践支援員 視察対応
- 「きわめびと」委嘱 JA愛知東
- 移住交流ガイドブック作成協力
- 奥三河観光DVD制作協力
- 東海テレビ資料提供(二十二日(放予))
- 平成二十六年 地域活動交付金 事業成果報告会(三月七日)

応募

〜住みたくなるまちづくり〜
平成二十七年 鳳来北西部地域 活動交付金事業に応募します。

行 平成二十七年二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二